

平成31年3月期 第1四半期  
**決算説明会**

平成30年8月3日  
株式会社 **DTS**

## 1. データリンクス株式会社を株式会社DTSへ吸収合併

データリンクス株式会社を平成30年10月1日に吸収合併することを決定した。業務シナジーの拡大や効率的なリソース活用の更なる推進により、経営の効率化、意思決定の迅速化を図る。

## 2. 自己株式の取得

平成30年5月～6月、資本効率の向上ならびに、株主へより一層の利益還元を図るため、自己株式を取得した。(約134千株、約6億円)

# 第1四半期 連結業績

売上高は、情報通信業の案件拡大や組込み関連事業の製品販売好調などで統合案件の減少をカバーし、前年同期比+1.2億円。

営業利益は、原価率の改善、不採算案件の減少や前期発生した一時費用がなくなったことなどで+3.2億円の増益となり、売上高とともに過去最高を更新。

(単位：億円)	実績	売上比(前年同期比)		前年同期比		業績予想に対する進捗率
売上高	203.1	—		+1.2	100.6%	23.3%
売上総利益	39.3	19.4%	(+1.2pt)	+2.6	107.3%	22.9%
販管費	20.4	10.1%	(△0.4pt)	△0.6	97.0%	24.1%
営業利益	18.8	9.3%	(+1.6pt)	+3.2	121.1%	21.7%
経常利益	19.3	9.5%	(+1.7pt)	+3.5	122.8%	22.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	13.1	6.5%	(+1.4pt)	+2.9	128.9%	22.5%

# 第1四半期 セグメント別 売上高

- ・金融公共セグメントでは、統合案件影響により減収となったが、他のメガバンクや生保などの案件は伸長しており、2Q以降更なる拡大を目指す。
- ・法人通信ソリューションセグメントでは、組込み関連事業における製品の販売好調や情報通信業、運輸業での案件拡大などにより増収。
- ・運用BPOセグメントでは、生保や情報通信業での運用案件拡大により増収。
- ・地域・海外等セグメントでは、金融系ビジネスなどが好調で増収。

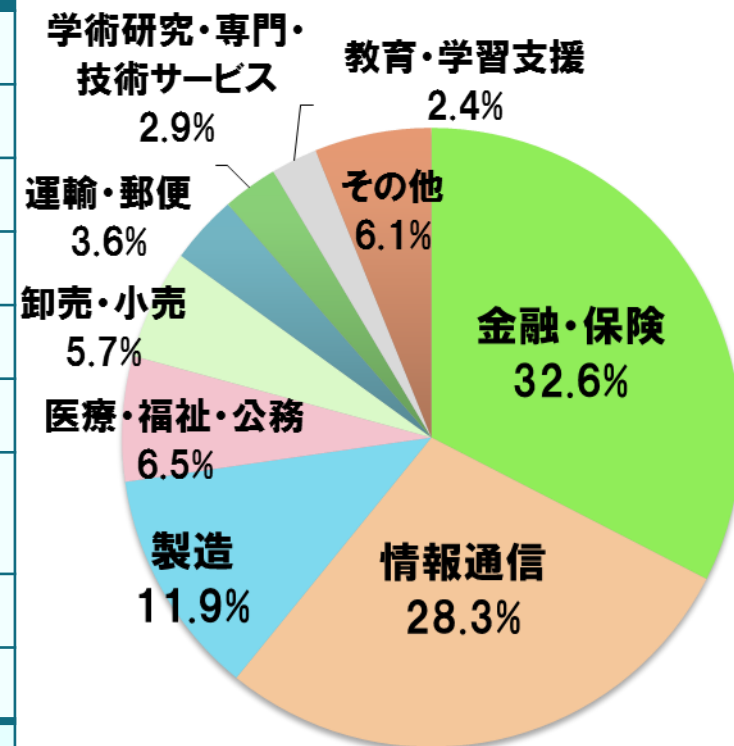
(単位：億円)	実績 (※)	構成比 (前年同期比)		前年同期比		業績予想に 対する進捗率
売上高	203.1	—		+1.2	100.6%	23.3%
金融公共	58.0	28.6%	(Δ5.8pt)	Δ11.4	83.6%	20.8%
法人通信 ソリューション	58.5	28.8%	(+4.1pt)	+8.6	117.3%	23.1%
運用BPO	31.8	15.7%	(+0.7pt)	+1.5	105.1%	25.3%
地域・海外等	54.6	26.9%	(+1.1pt)	+2.5	104.8%	25.8%

# 第1四半期 エンドユーザー別 連結売上高

- ・金融・保険は、生保などが堅調に増加したが、統合案件の減少影響により減収。
- ・情報通信は、情報サービス向け案件や放送向けプロダクトビジネス拡大で増収。
- ・製造は、組込み関連事業やソリューションビジネスなどが好調で増収。
- ・学術研究・専門・技術サービスは、プロダクトビジネス拡大で増収。

## 経済産業省による業種分類別売上高

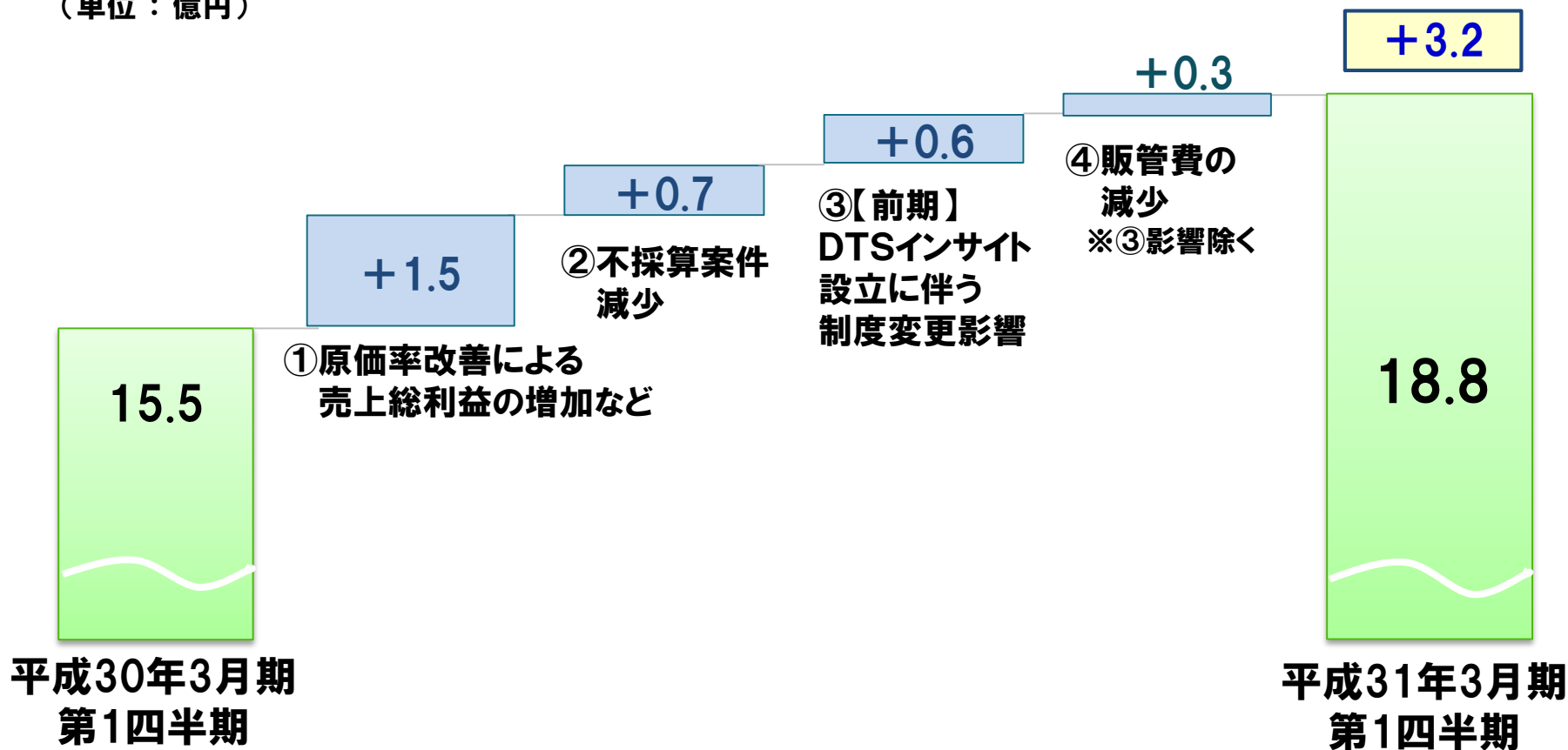
(単位:億円)	金額	構成比	前年同期比	
金融・保険	66.1	32.6%	△8.6	88.5%
情報通信	57.4	28.3%	+6.3	112.5%
製造	24.0	11.9%	+2.1	109.8%
医療・福祉・公務	13.2	6.5%	△0.2	98.2%
卸売・小売	11.6	5.7%	△0.4	96.1%
運輸・郵便	7.2	3.6%	+0.5	108.3%
学術研究・専門・ 技術サービス	5.8	2.9%	+2.3	168.4%
教育・学習支援	4.9	2.4%	△2.6	65.0%
その他	12.4	6.1%	+1.7	116.6%
合計	203.1	100.0%	+1.2	100.6%



# 第1四半期 連結営業利益の増減要因

組込み関連事業の利益率向上などで原価率が改善したことや不採算案件の減少などにより、売上総利益が増加。前期のグループ会社設立に伴う一時費用がなくなったことなどで、営業利益は前年同期比+3.2億円(+21.1%)となり、過去最高を達成。

(単位：億円)



## 【受注残高の状況】

- ・金融公共セグメントでは、統合案件が減少したが、他のメガバンクや生保などの案件拡大により前年同期並み。
- ・法人通信ソリューションセグメントでは、組込み関連や情報通信業は拡大したが、運輸業の案件縮小や一部案件の契約時期遅れなどにより減少。
- ・運用BPOセグメントでは、契約期間の長期化や金融系案件拡大などで増加。
- ・地域・海外等セグメントでは、契約期間の長期化などにより増加。

単位(億円、%)	受注高				受注残高			
	実績	構成比	前年同期比		実績	構成比	前年同期比	
<b>連結</b>	<b>141.5</b>	—	△2.2	98.5%	<b>292.1</b>	—	+9.9	103.5%
金融公共	23.3	16.5%	△8.6	72.9%	103.9	35.6%	△0.3	99.7%
法人通信 ソリューション	56.3	39.8%	+7.5	115.4%	65.0	22.3%	△1.5	97.7%
運用BPO	9.0	6.4%	+2.0	129.4%	84.2	28.8%	+9.6	112.9%
地域・海外等	52.8	37.4%	△3.0	94.5%	38.8	13.3%	+2.1	105.9%

# 第1四半期 個別業績

売上高は、生保、メガバンクや運輸などが堅調に推移したが、統合案件の減少影響により、前年同期比△4.3億円。

営業利益は、不採算案件の発生や新卒採用拡大による教育研修費の増加などにより前年同期比△2.0億円。

(単位：億円)	実績	売上比(前年同期比)	前年同期比	
売上高	132.8	—	△4.3	96.8%
売上総利益	25.0	18.8% (△0.5pt)	△1.4	94.5%
販管費	11.9	9.0% (+0.7pt)	+0.5	105.0%
営業利益	13.0	9.8% (△1.2pt)	△2.0	86.6%
経常利益	16.4	12.4% (△0.5pt)	△1.1	93.4%
四半期純利益	12.2	9.2% (△0.1pt)	△0.5	95.8%



# (参考1)データリンクスをDTSに吸収合併

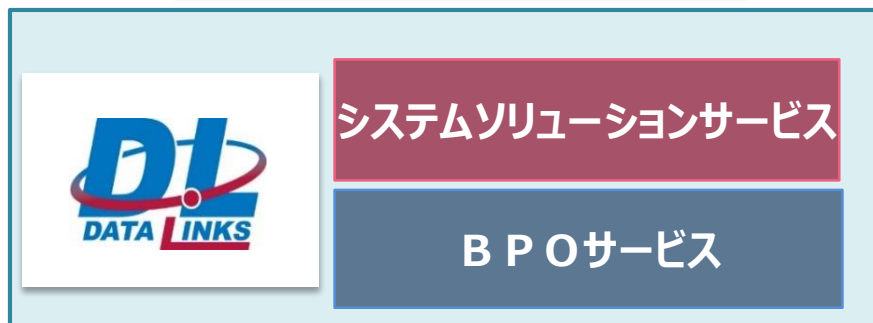
経営の効率化、意思決定の迅速化を図るため、データリンクス株式会社を株式会社DTSへ平成30年10月1日に吸収合併することを決定した。

なお、データリンクスはDTSの完全子会社であり、本合併による連結業績への影響は軽微である。

## (データリンクスの合併)



吸収合併による  
事業シナジーの更なる向上



## 合併効果

営業強化	・顧客基盤共有による営業活動の効率化、ならびに新規顧客や新規分野開拓への営業リソース投入
開発強化	・当社のソリューション・パッケージ開発力と、データリンクス株式会社のデータマイニングや基幹系システムの技術力を融合し、新規顧客の獲得に向けた開発・技術基盤を強化
人材強化	・両社の人材流動による業務ノウハウの共有、人材育成の強化
経営基盤強化	・経営の効率化、意思決定の迅速化 ・管理業務の効率化、生産性向上

# (参考2)主なプレスリリース

公表日	会社名	タイトル・概要
5月10日	DTS	「自己株式取得に係る事項の決定に関するお知らせ」 ※取得予定数:160千株、取得予定総額:600百万円、期間:平成30年5月14日～6月15日
6月18日	DTS	「自己株式の取得状況および取得終了に関するお知らせ」 ※取得総数:134,700株、取得総額:599,717千円 期間:平成30年5月14日～6月15日
8月3日	DTS	「当社連結子会社であるデータリンクス株式会社の吸収合併(簡易合併・略式合併)に関するお知らせ」 ※平成30年10月1日付で、データリンクス株式会社を株式会社DTSへ吸収合併することを決定

## <他社プレスリリース>

公表日	会社名	タイトル・概要
7月18日	東芝テック	「統計解析・AIを活用した商品の値決めやターゲット顧客の抽出 ～店舗運營業務省力化の実証実験を開始～」 ※東芝テックの店舗システム「PrimeStore」、顧客情報システム「CSdelight」とDTSの「統計解析・AIでの分析サービス」を活用した店舗運營業務の省力化の実証実験をドラッグストアの株式会社ケイポートで開始する(実験期間:2018年7月20日～9月30日)

# 平成31年3月期 第1四半期 決算説明会 ご清聴ありがとうございました

新たな価値を創り出す

**MADE BY DTS Group**



## 本資料についてのご注意

本資料に記載されている将来の売上高および利益などの予想数値は、業界の動向を含む経済情勢、お客様の動向など、現時点で入手可能な情報をもとにした見通しを前提としておりますが、これらは、種々の不確実な要因の影響を受けます。したがって、実際の売上高および利益などは、本資料に記載されている予想数値とは異なる場合がありますことをご承知おきください。